

平成24年度（2012年度）

事業報告書

自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日



特定非営利活動法人

東京ノーヴイ・レパートリーシアター

東京都世田谷区北沢3-30-3 ハイツ三 301

Tel/Fax : 03-5453-4945

E-mail : info@tokyo-novyi.com

HP : <http://www.tokyo-novyi.com>

1. 事業総括

～長期的なプランに立つ文化・芸術育成の必要性について～

報告者：理事長 岡崎弘司

<活動全般>

文化・芸術が、社会の中でしっかりと根を張っているほど、社会は活性化していきます。特に舞台芸術は、日本においても海外においても常に文化の牽引剤として大きな役割を果たしてきました。けれども戦後、残念ながら文化・芸術は「お金で買え」「取り換えが利き」「誰かが作ってくれるもの」として、商品化の道を歩きはじめ、近年その傾向は益々大きくなっている感があります。文化・芸術の育成は、徹底して「その分野を担う人材」の長期的な育成であり、同時に「文化を育む社会づくり」への長期的なアプローチです。この両者のバランスのとれた基盤が創られずに、本当に豊かな日本の文化を形成することは出来ません。

私たちは、1976年に演劇研究の任意団体としてこの問題に着手して以降、1988年に劇団を創設、2003年にはNPO法人化すると共に、当時ロシアウラジオストック市の室内ドラマ劇場で長年にわたり、主席演出家・芸術監督として活躍されていたレオニード・アニシモフ氏を日本に招聘、以後、10年近く同氏の指導のもとで、長期的な視点に基づく人材育成プログラムを内外に実施してきました。

また優れた芸術作品の普及のために、欧州のオペラハウスなどで実施されている「レパトリーシステム公演」を日本で初めて採用、厳選した作品の上演を実施してきました。このシステムは、長年にわたり優れた作品を「日替わり」で上演できるという方式で、この事によって作品は更に完成度を深め、一方で観客は、優れた数々の演目に日常的に触れられると言うメリットがあり、欧州における舞台芸術のレベルの向上と社会への普及・定着を支えるシステムとなっています。

<劇場での「千円公演」の試み。公演事業の展開。>

私たちは現在、東京都墨田区両国にあるシアターX劇場との共同企画により平成24年度から「千円公演」という価格での公演を実施しています。客席数160席規模で上演しています。

この試みを通して、私たちは“普段、演劇に接する機会のない人たち”と出会うことが出来ました。この公演形態は、ある意味、理想的な上演形態です。是非これからも、この活動の輪を広げて行きたいと思えます。

このシアターXとの共同企画公演を皮切りに、これまで世田谷区下北沢にあるスタジオ劇場で9年にわたって実施してきた「レパトリー公演」活動は終止符を打ちます。以降は、都内にある小・中規模の劇場（客席数150～500席目安）を拠点としたレパトリー活動に移行します。

<人材育成支援事業の展開>

同じように、これまで9年にわたり「スタニスラフスキー・システム」による舞台芸術創造理論の普及活動を、マスタークラスという形で実施してきましたが、現在、国内で行われている演劇教育カリキュラムは、ほとんどが表現者（俳優）を対象にしたもので、指導者（演出家）を対象にしたものが皆無に近い状況であることから、指導者育成に主眼を置いた演劇学校の開設に活動を移行します。このことにより、日本の演劇・文化事情に対するよりベーシックな貢献が出来る事を願っています。（具体的な実施は、次年度、平成25年9月以降になります。）

<認定NPOへ向けての活動>

平成23年のNPO法の大幅な改正と税制改革に伴い、私たちも当年度より「認定NPO法人」取得の為に準備を進めています。現在、私たちが行っているのは、内部に関しては運営全般の見直し、外部に対しては寄付の協力募集の告知です。

「寄付は、お願いするところから始まる」と言われます。私たちにしても、最初は恐る恐る始めた呼び掛けでしたが、1年目で90件ほどの寄付をいただくことが出来、目標件数のほぼ9割を達成することが出来ました（平成24年度の寄付総額446,000円となりました）。当初、寄付の呼びかけを始めたばかりの頃は、ほとんど反応がなく「何かやり方が間違っているのだろうか？」と自問自答を繰り返していましたが、やがて少しずつ、色々なところから「あなた達の活動に共感しました。寄付をさせてください。」という方が現れ始め、本当に心強い思いを感じさせてもらいました。

以下、寄付と共に寄せられた応援メッセージの幾つかを紹介させていただきます。

<寄付者からの応援メッセージより>

- ・ **演劇がもっと身近な社会になりますように。（50代／男性／仕立業）**
- ・ **“文化”や“芸術”を守り続けること。言うことは簡単ですが、実践で続けていくことは非常に困難です。東京ノーヴィ・レパトリーシアターの方々を初めとして、表に裏に、数多くの方々が、人類の“文化”や“芸術”を支えてくれている縁の下の力持ちだと思い、その地道で静かな活動に深い敬意を覚えます。（30代／男性／医師）**
- ・ **皆の活動を心の支えにしている人が沢山います。どうか、10年、20年、50年後もずっと育っていく劇団にしてください。（30代／女性／会社員）**

このように「認定NPO」取得のための呼び掛けを通して、新しい支援者の層が現れ始めてきました。「認定NPO」取得のための諸々の活動は、私たち芸術団体にとって、ともすれば後回しになりがちな、内部の運営の見直し、外部との繋がり方について見直しを促す良い機会となりました。

平成25年度以降も、引き続き内部の運営の見直しと適正化を図りながら、外部に対しては、寄付を通じた“私たちの活動への参加”を呼び掛けていこうと思います。

2. 特定非営利活動に関わる事業

演劇の公演事業（定款5条-1）

私たちの <レパトリーシステムの劇場> は、
多くの人たちに、優れた舞台芸術作品を日常的に親しんでもらえるよう
ヨーロッパ式レパトリー公演システムを採用して上演しています。

レパトリーシステムの劇場とは、

演目は、古典から現代劇までの幅広いレパトリー作品を選び、
作品は、日替わりで演目を変え、何年にも渡り上演していく劇場です。

観客は、長期間の上演で成熟が深まっていく質の高い舞台を楽しむことができ、

一方で、古典から現代劇までの優れた作品を、日常的に楽しむことができます。

私たちは、この<レパトリーシステムの公演>を通して、

優れた芸術作品を普及させる為の活動を続けています。



★平成24年度 公演事業支出総額 … 7,461千円

事業内容（1）レパトリー劇場としての活動

1) 活動の概要

東京都世田谷区の下北沢にある小さな劇場を拠点として、実に9年にわたり、新しい芸術創造の試みと普及活動に努めて来た。また敢えて、客席数を増やすことをせず、ゆったりとした客席で観劇できる環境にこだわり、客席数26席と言う贅沢な空間で、古典から現代まで優れた作家の作品を選び提供してきた。

演出・監修： レオニード・アニシモフ

上演演目： 1) 村山富士子原作『越後警女唄冬の旅』

(H24年度) 2) W・サローヤン作 2本立て公演

3) 宮沢賢治原作『銀河鉄道の夜』

4) 宮沢賢治原作『鹿踊りのはじまり』(他、落語語り『どんぐりと山猫』)

【実施日時】 平成24年2月1日（金）～6月2日（日）／34公演

☆下北沢演劇祭参加（2013年2月1日～3月3日）

【実施場所】 東京ノーヴェイ・レパトリーシアター劇場（東京都 世田谷区）

【従事者の数】 43名

【動員】 一般市民 334名

【後援】 世田谷区

2) 活動の成果

「まるで貸切で観ているかのような贅沢な空間」「俳優の息使いが肌で感じられる」と多くの方から好評をいただいた9年にわたる実験的なレパトリー運営を行ってきた。ただし、小さな空間での大作上演が「作品の健全な成長に合わなくなってきた」という芸術監督の判断のもと、チェーホフの4大戯曲、シャイクスピア、近松門左衛門の作品など、多くのファンに惜しまれながら、演目から外さなければならなかった。

ただし、先に紹介した両国シアターX劇場でのレパトリー公演など、これまでの蓄積された力が、確実に次のステップへ繋がってきているのを感じる。

尚、この年度をもって、世田谷区下北沢でのレパトリー公演は終了する事になった。今後は新たな劇場でのレパトリー公演を企画している。

<H24年度の観客の感想より>

『越後瞽女唄冬の旅』

- ・ 久々に観に来ましたが、ここでしか観ることができない「アート」あらためて実感させていただきました。すばらしい！（30代／男性）
- ・ そのリアリティーにおどろきました。すばしかったです。人生のすごさに、生きていることに、感謝。なつかしかったです。（60代／男性／グラフィックデザイナー）
- ・ はじめて鑑賞させて頂きました。「ござさん」という人達がいたことを初めて知りました。みわの最後スギさんに打ちあけた悩みは盲人の人、目のみえる人関係なく抱く悩みなのかなあと感じました。（25歳／女性／営業）

『銀河鉄道の夜』

- ・ 美しい。美しい映像作品を観ながら、生きたお芝居を堪能する、そんな感覚でした。不思議な世界と現実と、それを行き来し、涙が出ました。ありがとうございます。（男性／40代／自営業）
- ・ 最初来た時は以外に小さなっと思いました。しかし、だんだん劇を観ているうちにいつのまにかどンドンひきこまれていた。ここまでの劇団にはもっといっぱい活躍して欲しい。ひまがあったらこれからもできるだけ来たいと思う。（男性／10代／学生）

『鹿踊りのはじまり』

- ・ 無邪気な気持ちになれてよかったです。ありがとうございました。（女性／60代）
- ・ 意外な演出にビックリしました。数年前のノーヴェイさんとはずいぶん違い、むすんでひらいて？！（笑）主役の男の子、人形なのに表情豊かでした。やはり終わった後、心地よさが残ります。（女性／40代／児童福祉職）

『サローヤン 2本立て公演』

- ・ なんともせつなく感じた。考えていたよりエネルギーレベルが上がって驚いた。（男性／30代／セミナー講師）
- ・ 毎回演出・出演者が変わってそれぞれ楽しめました。笑い・ドキドキ楽しみました。これからの作品も期待しています。（女性／50代／会社員）

2004年度～2012年度の主なレパートリー



チェーホフ作『かもめ』
上演数…107公演



チェーホフ作『ワーニャ伯父さん』
上演数…109公演



チェーホフ作『桜の園』
上演数…105公演



近松門左衛門作『曾根崎心中』
上演数…124公演



ゴーリキー作『どん底』
上演数…132公演



チェーホフ作『三人姉妹』
上演数…84公演



シェイクスピア作『ハムレット』
上演数…33公演



宮沢賢治作『銀河鉄道の夜』
上演数…80公演



宮沢賢治作『鹿踊りのはじまり』
上演数…8公演



村山富士子作
「越後替女唄冬の旅」
上演数…19公演



サロマン作『A・デマ以降の…』
『おい、助けてくれ』2本立て
上演数…10公演



ドストエフスキー原作『白痴』
上演数…23公演

事業内容（2）プレヒト作『コーカサスの白墨の輪』 シアターX劇場 提携公演

1）実施した活動の目的と概要

今なお戦争の絶える事のない現代に、戦争の無意味さと、勇気をもって大胆に生きていく力を、ドイツの詩人で作家であるベルトルト・ブレヒトの作品を通して訴える。

演出： レオニード・アニシモフ
音楽協力： 後藤 浩明
衣装協力： 時広 真吾（リリック代表）
客演協力： 渡辺 歌子（シャンソン歌手）

【実施日時】 平成24年12月11日（火）～16日（日） / 9公演
（12月13日 国際シンポジウム併催）

【実施場所】 シアターX（カイ）劇場（東京都 墨田区両国）

【従事者の数】 43名

【動員】 一般市民 932名

【後援】 在日ロシア連邦大使館／ロシア連邦文化協力庁／NPO 法人日本ロシア協会

【協賛】 企業メセナ協議会助成認定活動／
㈱アーツブレインズ



舞台稽古より



終演後の乾杯

2) 活動の成果・評価

<観客のアンケートより>

- ・シーン、シーンでの陽気な語り口が、今の現状を乗り越えていくための活力につながるように感じた。世界にそのように向き合うことが必要なのかもと思えた。(42歳/男性)
- ・色々な方言で話される物語は面白く、それぞれの役に対して深く感情を入れる事が出来ました。一度では味わいきれない深い旨味がこの作品にはあるように感じられます。ありがとうございました。ご馳走様でした。(31歳/男性)
- ・今日はありがとうございました。初めて観た…というか今までには観たことのない感覚でした。(45歳/女性)

<千円公演への発展>

本公演の成果を見た シアターXプロデューサー兼芸術監督 上田美佐子氏の提案を受け、翌年3月から「普段、演劇を観る機会のない人でも気軽に観れるよう」というシアターXが主催している「X(カイ) レパトリー劇場」企画に参加し、チケット料「千円」で毎月、私たちの舞台を上演していく事が決まった。

演目は、『コーカサスの白墨の輪』および前年度に上演して好評を得たドストエフスキー原作『Idiot～白痴より～』の2作品を日替わりで上演する。

シアターX(カイ)劇場と上田美佐子氏について

シアターX(カイ)劇場は、1992年のオープン当初より劇場プロデューサー兼芸術監督に上田美佐子氏を迎え、「劇場自身に豊かな芸術家精神を」という理念のもと、一般的な貸し館公演は行わず、プロデュース公演、提携公演のみの運営を行っている。

シアターXでは、チケット料金の正統な価格を「千円」として、同劇場の主催公演「Xカイ レパトリー劇場」においては全てこの価格で公開するなど、「演劇芸術が生活の一部になること」を目的とした積極的な活動を続け、日本の演劇文化の向上に貢献している。

事業内容(3) <シアターX主催 共同企画「毎月レパトリー公演」>

4ヶ月間の「日替わり」定期公演

1) 活動の目的と実施内容

「普段、演劇を観る機会のない人でも気軽に観れるよう」という趣旨で「Xカイ レパトリー劇場」の一環として、チケット料「千円」の価格で毎月、上演を行った。

上演演目：ベルトルト・ブレヒト作 『コーカサスの白墨の輪』
ドストエフスキー原作 『Idiot～白痴より～』

【実施日時】	平成25年3月22日(金)～6月12日(水) / 8公演
【実施場所】	シアターX(カイ)劇場(東京都 墨田区両国)
【従事者の数】	43名
【動員】	一般市民 583名

2) 活動の成果・評価

千円公演と言うのは、私たちにとって実はかなりな冒険であった。舞台芸術の中でも、オペラ、バレエ、演劇など多くの人間が関わる作品は経費も大きい。また、地元ではなく墨田区での定期的なレパトリー公演をやる場合、集客の予想は立てづらい。

ところが予想に反して多くの人が毎回、劇場に足を運んでくれ、しかも全く新しい観客層が創られてきた。もちろんこれは、劇場側がこれまでに、そういった固定客層を創り上げて来た実績に負うところが大きい。「安い料金で、多くの人に観てもらおう」という、ある理想的な公演形態に対し、大きな手ごたえを感じた。



本番直前のリハーサル風景



終演後に行われた観客との交流会

<観客の感想より>

『白痴』

- ・本も読みましたが、本に忠実に迫力のあるお芝居でした。本当に感動致しました。衣装もきれいでした。東京ノーヴイの皆さんの「白痴」何回でも観てみたいと思いました。本当にありがとうございました。心から感謝！（女性／60代／主婦）
- ・この世界にひきこまれました。演劇の力ってすごいと思いました。（女性／40代／婦人服販売員）
- ・ことばが聞き取れないところがあったが、訴えるものはよく伝わってきました。とても面白かったです。今でも統合失調症の人（の中にこんな人がいますね）たちと同じだなと感じました。（男性／70／医師）

『コーカサスの白墨の輪』

- ・こういうの初めてです。おもしろい（男性／59歳／自営業）
- ・今日はありがとうございました。初めて観た… というか今までには観たことのない感覚でした。（女性／45歳／自営業）
- ・今日は選挙日でした。正義ってなんだろうとか、本当に勝つのだろうかとか正しい事がむくわれるのか、いつもびくびくしながら生きています。それでもあきらめたらそこで終わってしまうのだなあと思いました。涙がとまらなかったです。ありがとう。（女性／35歳／会社員）
- ・すばらしかったです！！感動しました。とても楽しくて、とても気持ちよくて、心があつたかくなって、言葉にできないけれど、すかつたようないい気分です。気持ちが落ちてたのが一気にぶっとびました。ありがとうございます。演劇観てこんな気持ちになったの初めてです。（女性／29歳）

～芸術創造の方法を広く伝え、人々の生き方を助ける為に～

演劇創造に関わる人材育成支援事業（定款5条-2）

スタニスラフスキー・システムは、俳優のトレーニング方法として確立されたものですが、「自然の法則」に基づくことを基本理念として、人間の精神的な能力を開花させることにおいてたいへん優れたメソッドであることが評価され、現在ではあらゆる芸術分野や心理学関係など、多くの分野の方に学ばれています。私たちは、毎年、芸術監督レオニード・アニシモフ氏による演劇マスタークラスを開催し、この創造システムについての、分かりやすく実践的な講義を広く、いろいろな分野の方に公開して、多くの方に学んでいただいています。

★平成24年度 人材育成支援事業の支出総額 … 5,231 千円

事業内容（1）レオニード・アニシモフの演劇マスタークラス

講師アニシモフが、既に10年にわたって日本で行ってきた演劇マスタークラスは、非常にユニークで、他に例を見ない独創的な授業として定評があり、これまでも、演劇関係者以外に、音楽家、舞踊家、心理学者、セラピスト、その他一般の方も含め、多くの方が受講している。

1. 平成24年 秋開講ワークショップ 俳優のためのマスタークラス

- 【実施日時】 2012年9月27日～10月26日（全10回）
【実施場所】 東京ノーヴイ・レパトリーシアター 劇場内
【従事者の数】 講師 1名 / アシスタント5名 / 通訳 1名
【受益対象者の範囲及び人数】 一般市民受講者20名（男性7名/女性13名） / 見学者（のべ）24名
【後援】 世田谷区



講義風景



講義風景



終了後の打ち上げ

2. 平成25年 春開講ワークショップ 俳優と演出家のためのマスタークラス

【実施日時】	2013年 3月11日～4月16日（全12回）
【実施場所】	東京ノーヴイ・レパトリーシアター 劇場内
【従事者の数】	講師 1名 / アシスタント5名 / 通訳 1名
【受益対象者の 範囲及び人数】	一般市民受講者18名（男性7名/女性11名） / 見学者（のべ）2名
【後援】	世田谷区



受講生同士の討論

講義風景

事業内容（2） 一般社会人クラス ～真船豊作「鮠」発表会を通じた活動～

演劇は、観劇の対象としてだけでなく、自身も演劇表現を学び体験する事で、その人の人生に変化をもたらすことは周知の事実です。

私たちは演劇表現の基礎は、発声や体操であるより、むしろその人の持つ「生活の記憶」「人生経験」の中にあるという考えから、この「生活の記憶、経験」という財産を使って、演劇を生活に生かしてもらおう為の、一般社会人の方々を対象とした演劇クラスを継続して開催しています。

1) 活動の概要

【活動内容】	真船豊作「鮠」公演を通じた演劇ワークショップ
【実施日時】	平成23年8月～平成24年7月（通年） （発表会：2013年4月23日～28日 / 8公演）
【実施場所】	東京ノーヴイ・レパトリーシアター劇場
【従事者の数】	3名（講師1名 / アシスタント2名）
【対象者】	一般社会人 10名

2) 活動の成果

受講者の方には、それまで演劇とは関係のない生活を送りながら、退職されてから演劇に関わりたいと参加された方や、家庭でご家族の世話をしながら参加する方、働きながら参加する方など様々な方がいます。

一人一人の生活条件が違う中、継続した演劇クラスに参加するのは中々大変なようですが、お互いに助け合い、自分たちで工夫しながら、とても和気あいあいとしたクラスが運営されています。また、毎年夏には自分たちで取材旅行を計画し、作品の研究にも余念がありません。

当年度は、昨年を引き続き、真船豊作『鼯』の稽古と再演を4月に行ったほか、現在は宮沢賢治の童話『種山ヶ原』を題材にした新作の稽古を行っています。



『鼯』稽古風景

演劇芸術に関する情報発信事業 (定款 5 条-3)

平成 24 年度 情報発信事業 支出総額 … 0 千円

<事業内容>

「スタニスラフスキー用語辞典 (仮称)」の翻訳と発表の準備

海外に比べ、日本でのスタニスラフスキーシステムの研究や翻訳についてはまだ歴史が浅く、今後、各方面で研究が進むことを期待しています。私たちは現在、「スタニスラフスキー用語辞典 (仮称)」の翻訳と発表の準備を進めています。

- | | |
|---------|------------------------------|
| 【実施日時】 | 平成 24 年 8 月～平成 25 年 7 月 (通年) |
| 【実施場所】 | 東京ノーヴイ・レパトリーシアター |
| 【従事者の数】 | 3 名 (ロシア語翻訳者2名、アシスタント1名) |

～国際的な交流を通して新たな繋がりを生み出す為に～

演劇芸術を通しての国際文化交流事業（定款5条-4）

★平成24年度 国際文化交流事業の支出総額 … 182千円

事業内容（1）『越後瞽女唄冬の旅』韓国公演

韓国ビタミン演劇祭（仁川市）正式招聘作品

1) 実施した活動の内容

韓国ビタミン演劇祭から今年も正式招聘を受けて、今回は日本の越後瞽女を描いた村山富士子原作『越後瞽女唄冬の旅』公演を行った。

- 【実施日時】 平成24年8月25日(土)～26日(日) / 2公演
- 【実施場所】 スポン公演文化会館（韓国仁川市）
- 【従事者の数】 15名

2) 実施した活動の成果

瞽女唄の萱森直子先生から指導を受けている幕あきの三味線の演奏は、特に深い感銘を与え、拍手と共に迎えられた。日本の歴史の中で独特な発展を遂げた瞽女唄の世界だが、文化や言葉の違いを越えて韓国の方々に受け入れていただく事ができた。

今回の韓国公演でも、多くの現地の方にご協力をいただいた。劇場の総監督からは施設の使用に関し全面的なサポートを受けただけでなく、公演に必要な材料の手配なども、多くの方に助けていただいた。字幕原稿の作成と投影に関しては、日本語に堪能なだけでなく字幕作業にも通じた現地スタッフの方がいて、本番に入ってから台詞の微妙なニュアンスを伝える為に校正を続けていただいた。韓国を訪れる度に「礼」の国だと実感させられるが、この文化の素晴らしさを改めて日本に伝えたいと思う。

尚、平成25年度には東京ノーヴイ・レパトリーシアター主催で韓国の方をお招きし、国際演劇マスタークラスを実施する予定である。



韓国公演ポスター



「瞽女」舞台写真



韓国劇団の方と食卓を囲んで

事業内容（2）： 国際シンポジウム

1) 実施した活動の目的と内容

「この現代を、勇敢に大胆に生き抜くには！」
未来が見えない今、人間らしく力強く生きて行くにはどうすればいいのか。
ブレヒトの熱いメッセージを受け止め、様々な専門分野の方から、力強く生きる為の知恵を発言してもらった。

- 【実施日時】 平成24年12月13日(木)
- 【実施場所】 シアターX劇場（東京都墨田区両国）
- 【従事者の数】 パネリスト8名、通訳2名

<参加をいただいたパネリストの方々>
田口ランディ（作家）、井出勉（作家/日本ペンクラブ）、鎌田東二（京都大学こころの未来研究所教授） 積一裕氏（日蓮宗僧侶）、李尚哉（韓国 MIR 代表） 上田美佐子氏（シアターXプロデューサー兼芸術監督）セルゲイ・ヤーチン（極東連邦大学哲学科主任教授）レオニード・アニシモフ（芸術監督）



事業内容（3） 講演会、討論の場をつくる活動

1) 「奇人変人倶楽部」

「奇人変人倶楽部」は、主に国内外で、文化芸術に関わる方々、関心を持っている方をお招きして、毎年行っている討論の場です。
第1回目の集まりで参加された作家の加賀先生が「お金にもならない、こんな集まりに参加する人間なんて、今の世の中では“奇人変人”の類だよ。」とユーモアたっぷりに発言された内容が、その後、この会の名称となりました。

「平成24年度 奇人変人倶楽部」
テーマ 『古事記の感情を読み解く！』
～神々の物語は、今を生きる私たちに何を語るのか？～
レクチャー 鎌田東二氏

(京都大学こころの未来研究センター教授・神道ソングライター)

【会議参加者】 加賀乙彦氏（作家）、鎌田東二（宗教哲学者）、武井協三氏（国文学者）、上田美佐子（シアターXプロデューサー/芸術監督）、他、計16名

【実施日時】 平成25年4月7日

【実施場所】 東京ノーヴィ・レパトリーシアター劇場内



2) 「ブレヒトについて」

「コーカサスの白墨の輪」の稽古を見学されたシアターXのプロデューサー兼芸術監督 上田美佐子氏が、演出家L・アニシモフ氏の考えに興味を持ち、そのお招きでアニシモフ氏から「ブレヒト」について話を聞く会が開かれました。アニシモフ氏は、ブレヒトの演劇観に関する自身の考えや、この偉大な作家を通して、演劇芸術がどうあるべきかという話など熱く語ってくれました。（内容は、「シアターX批評家通信」に掲載。）



【実施日時】 平成24年12月16日

【実施場所】 シアターX 会議室

【従事者の数】 講師1名、通訳1名

3) 「マイヤ・コバヒゼ講演会」

『現代ロシア演劇における新しい傾向』

2013年ロシア文化フェスティバルの一環として、演劇研究家のマイヤ・コバヒゼ氏の講演会を行うと共に、会の終了後は温かい交流会が開かれた。

【実施日時】 平成25年6月24日

【実施場所】 東京ノーヴィ・レパトリーシアター内

【従事者の数】 講師1名、通訳1名



～地域とのつながり～

演劇を通しての地域支援事業（定款5条-5）

★平成24年度 地域支援事業支出総額 … 65千円

事業内容(1)町田市における学校支援活動

平成21年以降、私たちは町田市の教育委員会ボランティアコーディネーター、及び学園の教職員からの要請に応じ、演劇ワークショップや発表会の指導を行っています。当年度は、学園内の発表会にあわせた指導を行いました。

- 【実施日時】 平成24年10月11日(月), 22日(月)
- 【実施場所】 町田市立 小中一貫校 ゆくのき学園
- 【受益対象者の範囲と人数】 35名(中学3年生)



事業内容(2)地元 下北沢における芸術鑑賞と体験の場づくり

アートサロン『元気の出る言葉の朗読会』

金子みすず、芥川龍之介、宮沢賢治などが遺した「元気の出る言葉」として、小説や詩から選んだ作品を朗読、その世界を体験する会を開きました。この会には、特に文学に興味を持つ方が多く参加し、交流会では色々な作家についての話題が尽きませんでした。

- 【実施日時】 平成25年6月30日(日)
- 【実施場所】 東京ノーヴイ・レパトリーシアター劇場内
- 【参加者数】 一般市民16名(内、サポーター会員3名)



事業内容（3）地元 下北沢における祭礼参加とお手伝い

私たちは、地域と繋がった演劇活動を目指し、祭礼その他、地元の活動をお手伝いしながら活動しています。

【実施日時】 平成 24 年 9 月 1 日（土）2 日（日）
【実施場所】 八幡宮例大祭の実施に関わる地域



事業内容（4）地元 下北沢での子どもたちの為のクリスマス公演

毎年の恒例となった、地元の方たちのためのクリスマス公演です。
今年も（恒例の）ロシア人サンタが現れ、子供たちにプレゼントを配りました。

地域の子供たちを無料招待

宮沢賢治原作 童話『鹿踊りのはじまり』 クリスマス公演
（他、落語仕立てお話『注文の多い料理店』あり）

【実施日時】 2012 年 12 月 23 日（日） / 2 公演
【実施場所】 東京ノーヴイ・レパトリーシアター劇場（東京都世田谷区）



～さまざまな試み～

その他、目的を達成するために必要な事業（定款5条-7）

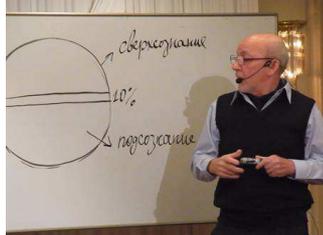
★平成24年度 その他目的を達成する為に必要な事業支出総額 … 171千円

事業内容：公開講座

<活動の内容と成果>

当日参加された方々からは、自身の抱えている問題をどう解決していくか、自分の能力をどうすれば育てられるのかなどについての熱心な質問が相次いだ。対して講師のアニシモフからは、問題の根源は自分の意識のあり方にあり、自身の意識の変え方、自身の意識の育て方の重要性について、具体的なトレーニングの方法も交えながらの実践的な講義が行われた。

- 【実施日時】 2012年12月1日（土）
- 【実施場所】 ホテル ルポール麹町
- 【従事者の数】 6名
- 【対象者】 一般市民40名



～ 演劇芸術が社会に根付くために ～

報告者：理事長 岡崎弘司

1) 「千円」公演の実験

今回、私たちが「千円公演」を実施する事が出来たのは、東京都墨田区両国の、シアターX(カ)劇場が一貫して展開している企画への参加によるものです。

シアターX(カ)劇場が、「千円公演」を始めた経緯や背景などについては、日本の演劇事情と、文化のあり方をみる良い材料ですので、ここに紹介させていただきます。

「現代演劇の舞台はクラシック演奏会並みに高価な娯楽になった。」

以下は、日経新聞が2013年8月20日にシアターXその他で行っているチケット低料金化の試みについて取り上げた記事です。

「会う人ごとに『採算合うの?』と聞かれる。と言うのは、シアターXの上田美佐子プロデューサー。(中略)2010年9月から、年間10本ほどある自主企画公演の入場料を、それまでの3千円～5千円から千円に引き下げた。一般的な小劇場の公演と比べても破格の安さだ。(日経新聞2013年8月20日)」

として、都内のパルコ劇場、公共劇場の彩の国さいたま芸術劇場などでのチケット料金を紹介し、現代演劇のチケット料金の高さと、演劇離れの傾向について報じました。もちろん現代の高価格化の流れは、劇団やプロデューサー側が暴利をむさぼっているのではなく、採算が取れなくなってきているからという実にシンプルな事情がある訳です。けれどもチケット料金の高価格化が、演劇の敷居の高さに拍車をかけてしまい、この悪循環は解消されることなく、むしろ肥大化の傾向です。

一方で上田美佐子氏は、雑誌テアトロ(2013年9月号)掲載のエッセイの中で、「…そもそも私が千円に設定しました動機は入場料の低料金化が目的ではありません。この際、少々込み入った言い訳を書かせていただきますが、その動機とは近年ますますの日本の演劇の質の低下、とくに21世紀に入ってからはどうにもやりきれないほどのていたらく。…」として、演劇団体側に対しても厳しい批判の目を向け、創り手側の明確な姿勢と覚悟を促します。

今の私たちを取り囲む状況は、何か社会全体で膠着状態に陥っている感があります。

「何か上手く行ってない。」誰もがそう思いながら、いつの間にか「だって仕方がない。」としか言えない状況に化けてしまっている気もします。

こういった中での「千円」公演は、実は意外にシンプルな答えを出してくれているのではないのでしょうか。「ちょっと時間ができたから見に来た。」「前から気になってたので…。」といった、それまで劇場には足を運ばなかった人たちの層が現れ始めています。もちろん、統計をとった数字ではありませんから、何%の変化が現れたとかは言えませんが、それでも、今後継続してみる価値は十分にあると私たちは考えています。

演劇芸術が社会に根付くための活動は、しかし、社会全体の色々な価値観を変えて行く運動に他なりません。一人が単独に動くのではなく、多くの人が考えを共有し、協力していくこと。その為にも、私たちは、色々なアイデアを出し、様々な試みを繰り返していかなければいけないと思います。

2) 次年度の事業予定

私たちの次年度の計画は以下の通りです。

- 1) 「認定NPO法人」取得のための寄付募集と活動の広報。
- 2) 新しいレパトリーとして、2作品を準備中。
神話『古事記』舞台化
ノーベル賞作家サミュエル・ベケット作『ゴドーを待ちながら』
- 3) 墨田区のシアターX劇場での、「千円」公演の継続と展開。
- 4) 世田谷区での劇場レパトリー公演の展開を検討中。
- 5) 海外の国際演劇フェスティバル参加の準備中。
(対象演目『白痴』『コーカサス』『曽根崎心中』)
- 6) 民間での実験的な試みとして、演劇学校「アカデミー（仮称）」開校準備中。
※2013年9月より、この企画は「東京インターナショナル・スタニスラフスキーアカデミー」として開校しました。
- 7) 国際演劇交流事業として「国際マスタークラス」開催。(日韓露の芸術交流活動)
※2013年10月に、韓国側10名、ロシア側3名のアーティスト、学者の方々を招いて、1週間にわたる国際マスタークラスを実施しました。



2012年12月『コーカサスの白墨の輪』終演後に

私たちは「認定NPO法人」を目指しています。 ご賛同頂けましたら、ご寄付の協力をお願い致します。

平成23年のNPO法の大幅な改正と税制改革に伴い、私たちも「認定NPO法人」取得の為の準備を進めています。
是非、ご理解の上、ご協力をお願い致します。

= ご寄付の際は、以下のことにご留意ください =

1. ご寄付の際は、必ず、お名前とご住所をお願いします。
名前と住所の分からない方からの寄付は、「認定」審査の際に寄付としてカウントされません。
2. ご夫婦、親子など、住所が同じ方からの寄付は、「認定」審査の際は、合わせて1人分としてのカウントになってしまいますので、ご寄付の際は、ご了承の上でお願い致します。
3. 私どもの団体は、まだ「認定」を受けておりません。従って、寄付をされる方は「寄付に伴う還付」等の税制優遇の対象にはなりませんので、ご注意ください。